



入学を祝して

歯学部長 前田 健康

平成25年度新入生の皆さん、厳しい受験競争を勝ち抜き、新潟大学歯学部に入學おめでとうございます。歯学科40名、歯学科3年次編入生5名、口腔生命福祉学科20名、口腔生命福祉学科3年次編入生4名、計69名の新入生を迎え入れることができましたことは、私ども新潟大学歯学部教職員にとっても、この上もなく喜ばしいことであり、また保護者ならびにご家族の皆様喜びもひとしおと拝察いたします。これからの学生生活の中、我々教職員とともに、日々進歩する歯科医学、口腔保健医療・福祉学を学び、新潟大学歯学部のさらなる歴史を築いていきましょう。

新潟大学歯学部は昭和40(1965)年に設立され、今年度で創立48年を迎え、人生で言えば、壮年期にあたります。ウィキペディアによれば、「壮年とは成人として最も体力、気力が充実しているとされる年齢」とされています。歯学部では、歯科医学・口腔保健福祉学の分野に貢献する専門職業人の育成を教育目標としています。この教育目標を達成するために、さまざまな工夫を凝らしたカリキュラムが編成されています。諸君がこれから学ぶ新潟大学歯学部では「学生自身が自ら学ぶ」ということを教育の柱としています。歯科医療人、口腔保健・福祉医療人として長い人生を過ごしていくには、日々進歩する学問を常に修得する必要があります。そのためには生涯学習という観点が必要で、生涯学習のためには、自ら学んでいくという態度が不可欠です。我々新潟大学歯学部の教育スタッフは、学部教育を生涯学習の最初の時期と位置づけ、課題探求・問題解決能力の育成を重視し、その後続く学習を通して、専門性を主体的に向上させる人材を養成することを基本認識としています。すなわち、諸君がこれから新潟大

学歯学部で学ぶ講義、実習の内容は社会に出てからのスタートラインに立つための内容でしかありません。本学部では課題探求・問題解決能力の育成の観点から、Problem-based learning (PBL) という学習方法を導入しています。このPBLでは教員は学習者の補助者にすぎず、「学習の主体は学生である」という概念で、学習が進んでいきます。この教育手法の主眼が「学生自身が自ら学ぶ」ということにあるのはいうまでもありません。新潟大学歯学部の教育の主役は、教員ではなくて、君たち、学生諸君です。

平成16年度の国立大学法人化により、私ども新潟大学歯学部も厳しい競争的環境の中に置かれています。新潟大学歯学部はこの厳しい競争的環境の中、各種競争的資金を獲得し、次世代を担う若手人材の育成に力を注いでいます。平成18年度の文部科学省事業「特色ある大学教育改革支援プログラム」、平成24年度の文部科学省事業「大学間連携共同教育推進事業」に採択され、全国歯科大学・歯学部のモデルケースとして高い評価を受けています。また、大学院課程では平成17年度「魅力ある大学院教育イニシアチブ」、平成20年度には「大学院教育改革支援プログラム」に採択され、学士課程から大学院課程まで、高い教育の質を担保し続けています。さらに、平成21年度には「組織的な若手研究者等海外派遣プログラム」に歯学部単独のプログラムとして、全国で唯一採択され、近年では学部学生の海外交流事業に平成23年度から3年間連続で採択され、グローバルに活躍できる人材の育成にも力を注いでいます。

厳しい国家財政の中、学生教育環境整備にも力を注ぎ、歯科治療をシミュレートする実習設備(ファントム実習設備)、学生診療用の歯科ユ

ニットが更新・整備され、各種教材、教育機器の整備・充実にも努めています。また平成25年2月からは歯学部校舎大型改修工事も開始され、来年3月末までには第1期、第2期改修工事（校舎面積17,500㎡弱の約2/3）が完了予定となっています。これらの高度かつ快適な教育環境を積極的に活用し、自己の目標達成のために、切磋琢磨し、たゆまない努力をお願いします。

勉強の話ばかり致しましたが、20代前後のこの

時期、勉強ばかりだけでなく、クラブ活動、ボランティア活動などさまざまな社会経験をし、歯学部以外にも多くの友人を作り、教養のある社会人となるよう人間性を磨いて下さい。そして、社会の期待に応える医療人を目指し、これから充実した学生生活を過ごし、卒業時に、平成25年度入学生および保護者の皆様全員でまた朱鷺メッセで喜びを分かち合しましょう。





入学を祝して

医歯学総合病院総括副院長 興地隆史
(歯科担当)

平成25年度歯学科・口腔生命福祉学科の新入生の皆様、ご入学おめでとうございます。楽しく充実した学生生活を過ごされますよう、心よりお祈りいたしております。

さて、新潟大学医歯学総合病院歯科系診療部門は、前身の新潟大学歯学部附属病院として昭和42年に開院以来、環日本海地域における歯科医療の拠点として高度かつ専門的な医療の提供に努めてまいりました。すなわち、地域基幹病院として、一般の歯科診療所では対応することが難しいさまざまな口腔・顎・顔面領域の疾患を抱える患者様の治療にあたるとともに、研究病院として高度あるいは特殊な歯科医療、さらには新たな診断・治療技術の開発にも取り組みを続けています。

その結果、現在の医療界のトピックである再生医療（歯周組織、顎骨）を含めたさまざまな疾患に対する専門外来を開設するとともに、歯の移植、CAD/CAM（コンピューターで設計して歯の詰め物を製作する技術）、インプラント、培養粘膜移植、顎顔面補綴（顎や顔面に生じた欠損に特殊な入れ歯などを製作する治療）などの先進的な治療技術も提供しています。さらに、重い基礎疾患や心の問題などを抱えた患者様への歯科的対応や、大きい手術の前後での口腔管理（患者様の回復やその後の生活に大変重要な意味を持つことが注目されています）など、大学病院ならではの医療にも鋭意取り組んでいます。歯科衛生士のスタッフ数も年々増えており、以上のさまざまな活動の中で口腔ケアのプロフェッショナルとしての活躍の場がますます拡大している状況です。

また、昨年11月に新しい外来診療棟がオープンし、新たな歯科外来が医科系外来と同じ建物の中で診療を開始しました。これで名実ともに、医歯学総合病院の歯科系診療部門として、医科との相互の連携のもとに先端的な医療を提供する体制が

整ったこととなります。現在の医療のキーワードの一つは「多職種連携によるチーム医療の推進」ですが、その実践のための環境が物理的にも整備されたととらえることもできます。

以上、皆さんが将来の夢を膨らませる手助けになればと思い、多少のPRとともに病院の取り組みを長々と紹介させていただきましたが、本院歯科のもう一つの重要な側面として、教育機関としての活動を挙げるすることができます。新潟大学歯学部には、診療参加型の臨床実習やPBL(problem-based learning)をはじめ、自ら学ぶ姿勢の育成を重視した定評あるカリキュラムが用意されていますが、その中で病院での実習は、節目や締めくくりに位置する非常に重要なものとなっています。皆さんもすでに早期臨床実習を履修し、将来像が多少なりとも具体的に変わったのではないのでしょうか。ここで考え感じたことを忘れることなく、優れたプロフェッショナルを目指して邁進していただければと思います。

最後に、立派な歯科医療従事者を目指して勉学に励んで下さいと申し上げるべきことはもちろんですが、それだけの学生生活をお勧めできないことも言うまでもありません。むしろ、勉学以外のさまざまな学生時代ならではの活動、たとえば部活、サークル、ボランティア、アルバイトといったものにも参加することで、魅力ある医療人としての皆さんの資質と素養が磨き上げられることを大いに期待しています。新潟の食と自然を堪能することもお勧めです。そして、一人でも多くの気の合う仲間を増やして頂きたいと思います。大学時代こそが、心の底から信頼できる友人との貴重な出会いの場であると言っても過言ではありません。かけがえのない友人と切磋琢磨しながら、楽しく充実した毎日を過ごして下さい。